

京都発

エコイベント アイデア BOOK

地蔵盆から祇園祭まで。
この一冊でエコイベントに。



めざせ!エコイベント

- 京都市認定エコイベント登録でエコ化をPR!
- 賢く使おう!「リユース食器」助成金制度

巻頭インタビュー

くるりのお二人に聞く 「音博」で感じたこと

エコイベントの先駆者達

なるほど!疑問解決
エコイベント
成功のための
27のチェック
ポイント

京都市 応援します。あなたのエコイベント

京都のイベント、もっとエコに

観光のまち、学生のまちであり、地域の伝統行事が今も数多く受け継がれる京都。

日本三大祭の一つに数えられる祇園祭から観光行事、学園祭、地蔵盆や地域のお祭りまで年間1万件を超えるイベントが催されています。

一方、たくさんの人が集まるイベントは短期間で大量のごみが発生し、環境に大きな負荷を与えるものであるも確か。

そこで、どうすれば一つひとつのイベントを「エコ」にできるか皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

イベントを企画・主催する人が、少しでも多く環境について考えること。

それはやがて参加者へ伝わり、京都からやがて世界へと

エコ意識が広まっていくことにつながるのではないのでしょうか。





CONTENTS

目 次

- 01 京都のイベント、もっとエコに
- 03 巻頭インタビュー くるり& 京都女子大学
くるりのお二人に聞く。「音博」で感じたこと。
- 09 エコイベントの先駆者たち
美しい祇園祭をつくる会、
同志社京田辺祭2009実行委員会、
京都女子大学「SHIBARIWA」、京都サンガF.C.、
特定非営利活動法人「環境市民」
- 19 イベントをエコにしてみよう！
 - ステップ01 企画・準備
 - ・エコイベント成功のための 20
 - 27のチェックポイント
 - ・「京都市認定エコイベント」への登録 25
 - ・「リユース食器」助成金制度 26
 - ステップ02 実施・運営
 - ・イベント会場「ごみ減量大作戦!!」 27
 - ・「ごみステーション」をつくろう! 29
 - ステップ03 検証・まとめ
 - ・成果を次へ活かすために 30

巻頭
インタビュー

くるりのお二人に聞く。 「音博」で感じたこと。

京都出身のミュージシャン「くるり」。

そのメジャーデビュー10周年を記念してはじまった「京都音楽博覧会」。

出演はもちろん、直接プロデュースもされているお三人に、

京都女子大学の学生さんがその経験で感じたことをお聞きました。

くるり／岸田 繁さん(後列):vocal,guitar・佐藤征史さん(前列右):bass

インタビュアー／翼 麗衣さん(前列左)・八田和子さん(前列中):京都女子大学

くるり Profile

1996年に立命館大学にて結成。1998年メジャーデビュー。「みやこ音楽祭」「京都音楽博覧会」など地元・京都での音楽イベントにも力を入れている。



京都音楽博覧会(梅小路公園)

京都で誰もやってない イベントをやりたいかった

京女:くるりさんは2007年から野外音楽フェスティバル「京都音楽博覧会(以下、音博)」を主催してらっしゃいますが、始められたきっかけは?

岸田:そうメジャーデビュー10周年。京都で組んだバンドですから京都で何かやりたいと考えていて、どうせやったら誰もやってない場所で、誰もやってないことをやろう、という話から梅小路公園で野外フェスをやらしてもらうことになりました。最初はその年だけと思ってたんですが、そのあとも続けさせてもらってます。

京女:2010年で4回目ですね。

岸田:1年目のライブで、お客さんから「来年もやって!」って言われたんです。それでステージ上で「次もやるぞ!」と約束してしまった(笑)。

佐藤:音博のステージは他の野外フェスと違って夜ではなく昼間、芝生の上でやります。ちょうど自分たちの出番の時が夕暮れで。ライトを浴びるとみんなの顔だけが一杯浮かんで見えるんです。

京女:それは素敵ですね。

佐藤:みんな、すごくいい顔になるんですよ。



自分たちが主催するライブでこんなことを言うと自己満足と言われるかもしれないけど、その顔をステージ上で感じられるというのはかなり大きな喜びで。すごく幸せなイベントだと思うんです。実際には大変なことも多いんですけど、自分たちもいろんなジャンルや海外のミュージシャンの方と触れ合えてライブも見られるので、できることなら続けたいと思いますね。

知恵を出し合えば ムダはなくせる

京女:野外音楽フェスと言えば、終わったあととはごみの山…というイメージが強いんですが、それが音博では、分別用のごみ袋を配ったり、リユース食器を使ったりと、エコ化に積極的です。

岸田:エコという言葉自体、今は形骸化さ

れてるところもあって、「環境にいいことしてる」とか「これはエコですね」とか言うことが自分にとってどういうことなのか。まずは「知ること」が大事だと思うんです。まあ、一番のエコは音博をやらないことなんです。

京女:そんな! (笑)

岸田:やらなければごみも出ないし。でもそんなこと言ってたら何もできなくなる。知恵を出し合って、どうやってムダをなくすか。お金をかけない、処理に手間がかからないイベントのやり方とか。その方法をまずは考えなくてはいけない。音博では、始めた当初からリユース食器や、ごみの分別に取り組んでらっしゃる団体の方に参加してもらっています。

京女:知って考えることが大事なんですね。

岸田:もちろん僕たちも完璧にできてるとは思っていないです。皆さんは環境を専攻されてる学生さんなんでご存じだと思うんですが、





マイ箸ってあるじゃないですか。割り箸をやめてマイ箸を使えば環境にやさしいってみんな思ってる。僕も買ってみたりしたけど。でもちょうど去年の夏の終わりごろ、京都に帰ってきたら山が赤かったんですよ。地元の人に「えらい今年は紅葉が早いですね」って聞いたら「あれは虫ですよん」って。

京女:ナラ枯れですね。

岸田:山の持ち主が林業をやめてしまって、手入れがされていない。その話を聞いてよくよく考えたら、割り箸がもったいないからといってマイ箸を使えば、日本で林業が衰退して結果、山が放っとかれて虫がわく。極端に言うとかエコが産業の衰退につながるかもしれない。もちろん、そんな単純なことではないけど。ただそう考えたら、マイ箸と割り箸、いったいどっちがええことなんやろって考えてしまう。

京女:わが校でも間伐材を使った国産割り箸を普及させようと起業したグループがあるんです（詳細は13ページ）。マイ箸も割り箸もそれぞれ利点があって何が正解か難しいですね。よくよく考えないと。

佐藤:いろんな方法が一杯あっていいと思う。

結果的にムダをなくすことだと思うんです。もったいないという感覚があれば、普通に行えることもあるから。

考えるきっかけを 持って帰ってもらう

岸田:最近いろんな音楽フェスがあって、“フェスバブル”って言われてますが、フェスはだいぶ昔からあるもので、60年代のアメリカのウッドストックとかではいろんなミュージシャンが集まって、音楽を通じて自由や高揚感を感じたり、新しい価値観を持ったりした。もちろんその頃は環境問題やエコなんて概念は一切ないけど、やっぱり僕らロック好きからすると美しいもんとして語られている。今は僕らみたいなロックバンドがイベントをやると、絶対環境に取り組むとかエコとか枕詞をつけなあかんみたいなのところもあるんですけど、それは僕はカッコ悪いと思ってるんです。そんなことは個人個人が取り組むことですから。

京女:参加する側も、エコ活動をしに行くのではなく、音楽を聴きに行くのですものね。

岸田:来てくれた人、やらせてもらっている土地に対して、モノとかお金とかじゃない、いい価値観とか、楽しかったなあという気持ちとか、そういう目に見えへんものをちゃんと持ち帰ってもらうことが大事。そういう思いのあるイベントは、自然とみんなにごみをばら撒かせない。道理が通ってへんイベントではダメなんです。

佐藤:たとえば山に登ると「ごみは持って帰ろう」って自然に思うじゃないですか。普段はせえへんけど、すれ違うおばちゃんに「こ



んにちは」って挨拶したりとか。その場に行ったら「そうせなあかん」空気がある。

京女:音博の会場でごみが散らかっていないのは、そういう空気感があるからですね。音楽を聴きに来た人が、たまたま会場でリユース食器という方法があったのかと知って、一つでも考えるきっかけを持って帰ってもらう。大がかりなことではなく、ずっと身近に入ってくるようなものがないんですよね。

岸田:だから、音博というイベントで何ができるのか分からへんけれども、自分たちが音楽をやって伝えるメッセージの一つには、それぞれが「深く考えよう」ということがあると思うんです。音博もそれを推進する一つであればいいかと思ってる。

長く続いていることに 知恵とヒントがある

岸田:音博の会場が芝生敷きなんです、土のあるところはやっぱり自分が「生き物」

な感じがすると思うんですよ。ちょっとやらかい気持ちになる。

京女:京都ならではの雰囲気というものあるんでしょうか。

岸田:ありますね、それは。京都に帰って来るといつも思うんですが、建物の高さが低いでしょ。これは相当頭がいいなと思います。住んでる人も多いし、僕が不動産屋やったら高いマンション建てたいし、こんなもったいない土地の使い方はない。でも朝起きて山が見える。京都にいたときは分からへんかったけど、実際東京に住んできると圧迫される感じがするんですね。大都市なら京都がホッとする。エコと直接つながらないかもしれないへんけど、まちの作り方とかを深く考えていくとヒントがたくさんあるのかな、と思うんです。

京女:そうかもしれないですね。

佐藤:昔から続いているものって、自然に沿って形ができて、今まで続いているじゃないですか。これって意外と理にかなってたりするこ

とが多くて、昔の人の知恵じゃないですけど、実は自然のルールを分かっていたりするんやと思うんです。

岸田:昔のおばあちゃんの知恵ってあるでしょう。野菜が腐らへんようにお漬けもんにしようとか。そういう長く続いていることに、結局ヒントがあるんじゃないかな、と最近思うんですよ。

京女:昔から続いていることというのは、意味があって、そこから得られる知恵がある。

岸田:何も「エコや!」と思ってお漬けもん

漬けてるわけじゃないけど(笑)。

京女:当たり前だったことを見直してみても、考えるきっかけ、深く知るきっかけになればいいですね。お話を伺って、音博を観に行くのが楽しみになりました。

岸田:いや、正直まったく儲からないイベントなんですけど…。

京女:ぜひ続けてください。

佐藤:がんばります。

京女:9月を楽しみにしています。本日は本当にありがとうございました。

紹介します

インタビューに協力いただいた京都女子大学・蒲生ゼミの皆さん



蒲生先生を囲むゼミの皆さん



手作りのリサイクル作品(キャップ回収容器、エコバッグ等)

くろりさんへのインタビューに協力いただいたのは、京都女子大学・蒲生ゼミのお二人。質問はゼミのみんなで一緒に相談して作成してくれました。環境が専門の蒲生先生の下、地域のふれあいまつりでリユース食器のボランティアをしたり、小学生にリサイクル工作进行を指導したりと、教室を飛び出したフィールドワークをモットーとする行動派のゼミです。

◎インタビューを終えて

じっくり考え、丁寧に応えてくださったのが印象的でした。有名なミュージシャンの方が身近なところからエコを取り入れて、何かを考える「きっかけ」を広くつくってくださることが、とても心強いと感じました。

協力／京都女子大学 蒲生ゼミ (上左から) 滝川賀奈子さん、多田しおりさん、蒲生先生、竹村沙央里さん、中村 愛さん、眞岸寛子さん (下左から) 巽 麗衣さん、八田和子さん、飛坂 舞さん、吉田江里さん



情けない。 鉾町は ごみ箱とちゃいます。



ごみを減らし、リサイクルを進めること。
日常生活でできても、不特定多数が訪れる
イベントで周知徹底するためのコツとは？

山鉾の町に現れる もう一つの「山」

「祇園祭をなんとかせなあかん」。松井恵さんがそう思ったのは2005年の宵山のこと。中京区壬生に生まれ、祇園祭は幼い頃から夏の一番の楽しみでしたが、夫の転勤で長く京都を離れ、帰京後も子育てや仕事に追われる中で足が遠

Profile

美しい祇園祭をつくる会
代表代理

松井 恵さん

環境保全を考える「京都環境
アクションネットワーク」代表
を務め、2006年に「美しい祇
園祭をつくる会」を結成。祭り
のごみ問題に取り組む。

のいていました。そんな頃、海外からのお客様のガイド役として何年か振りで宵山を訪れたのでした。

鉾町へ足を踏み入れて驚いたのは、足元に散乱する大量の使い捨て皿や割り箸、ペットボトルにビール缶。鉾町や露天商の人たちがごみ箱を設けてはいますが、入り切らないごみが山のようにあふれかえり、もはやどこが回収場所かも

分からない始末。おまけに細い路地や物陰からはアンモニア臭まで漂ってくる有様です。



ボランティアスタッフが分別をナビゲート

適正な分別のために まずごみを知る

「動く美術館とまで言われる祭りなのに、お客様に顔向けできないほど恥ずかしくて…」ごみは分別もされず、袋から竹串が飛び出すなど危険を感じた松井さんは、その場で来年に向けて行動を起こすことを決意しました。

長年、環境保全を考えるグループで一緒に活動している仲間を招集。まず2006年は調査から

スタートしました。山鉾連合会の許可を得て宵山の3日間で回収したごみ一つずつ、それぞれ針金一本まで仕分けし、ごみの種類と量を分析。その結果に合わせて分別しやすいよう、色分けしたごみ箱を作ることを提案しました。

ごみ箱を設置するだけでなく、その場にスタッフが常駐して分別を案内。箱が一杯になる前にごみ袋を交換することで散乱も減りました。「誰かが歩道に置いた空き缶が目印となってごみの山ができる。最初の一つを捨てさせないことが大切」とパトロールも強化しています。40人だったボランティアスタッフも今では400人を超え、活動も知られるようになりました。

「ユネスコの世界遺産にも登録された祇園祭。いつまでも京都人の自慢であってほしい」。松井さんたちの活動は続きます。



宵山の鉾町を歩いて散乱ごみをパトロール

■コラム

「割り箸」だってリサイクルできる！

模擬店や屋台から出る大量のごみ。ごちゃまぜのまま回収すれば焼却処理するしかありませんが、分別すればまだまだ使えるものだってあるはず。例えば割り箸。大手製紙会社の中には、割り箸を回収して紙の原料にリサイクルしているところもあります。イベントで使い終わった割

り箸を集めて、これらの製紙会社へ送ると、また資源として生まれ変わります。使用済みの割り箸を集める際に、「鉛筆立て」のような回収用の筒を用意しておけば、束にしたり、その後、乾燥させたりする手間も省けるといふもの。リサイクルの輪を広げるほんの少しの工夫です。

使い終わったんぷら油が ステージを照らす

ロックバンドの演奏に、お笑いステージ、のど自慢コンテストなど、ステージプログラムはイベントの華。その舞台を照らすライトを全てバイオディーゼル燃料で発電しようという試みが行われたのは、

同志社大学京田辺キャンパス。2009年の「同志社京田辺祭」実行委員会で環境チームを担当した高山俊一さんは「予想以上に大変でしたが、やりがいのある取組だった」と振り返ります。

生物由来原料から作られるバイオディーゼル燃料（BDF）。毎年、このイベントの中で環境問題に取り組んできた同志社大学では、2007年にもバイオ燃料で発電を行いました、この時は発

使った油も 捨てたもん じゃない。

省エネルギーに、省資源。個人では心掛けて
いるけれど、イベント会場では何ができるのか？
新しいエネルギーに着目するのもアイデアです。



Profile

同志社大学
「同志社京田辺祭2009」
**実行委員会
の皆さん**

京田辺キャンパスで行われる
同志社京田辺祭。2009年実
行委員会で環境を担当した
高山俊一さん(右)、井上誠さ
ん(左)、岡本昌子さん(中)。



電機と共に燃料も専門業者から購入しての実施でした。そこで高山さんたちは「せっかくなら原料の回収から挑戦してみよう」と考え、家庭から出る使用済てんぷら油の提供を市民に呼び掛けたのです。

2カ月かけた回収作業は「エコ啓発作業」だった

回収の目標に掲げたのは200ℓ。一般家庭から出るてんぷら油は1回につき数百mℓですから、自炊もあまりしない学生の間だけで集めて賄える量ではありません。イベント当日までの2カ月弱。メンバーは、まず地元市民に呼び掛けるところからスタートしました。

チラシを役場に掲示するだけでなく、回覧板で



ステージ照明の電力は全て使用済てんぷら油で発電



当日の会場でも使った油の回収を行った

まわしてもらったり、ポスティングに回ったり、地域のイベント会場へ出かけて行って回収ブースを設け、集めた油と景品を交換しました。もちろん大学周辺のお宅を一軒ずつお願いに回ることもしたと言います。大学の食堂から出る揚げ油と合わせて当日までに集まったのは目標を大きく超える250ℓ。それらは専門業者に委託して精製され、無事2日間、ステージを照らし続けることができました。

「最初は発電が目的でしたが、回収のために一人ずつ説明して歩き、環境への取組について理解してもらったことにこそ、大きな成果があったように思います」と高山さん。

てんぷら油も、人と人との関わりも、まだまだ捨てたもんじゃないようですね。

■コラム

「ペットボトルキャップ」で燃料を。

イベントやお祭りの会場で大量に出るごみの一つがペットボトル。分別回収でリサイクルにまわすことは定着しつつありますが、もう一つ処理に困るのが「ボトルキャップ」。最近では個別に回収するボックスを見かけるようになりましたが、これを回収し、油化して再利用する方

法があるのをご存じですか？

専用の装置を使えば、ボトルキャップからリサイクル燃料を抽出することができ、それで発電して文化祭を行った学校もあります。「もったいない」という気持ちはアイデアの種なのかもしれません。

わりばし 一膳の革命。

03

エコイベントの
先駆者たち

Profile

京都女子大学

SHIBARIWA の皆さん

2009年に10人の学生が学内企業としてスタート。林業と山林の再生を目的に国産割り箸の販売を手掛ける。高桑進教授(中)、渥美志織さん(左)、宮田真優加さん(右)。

大量の物品が配られ、消費されるイベント会場。主催者として何を選べばいいのか、ほんの少しの問題意識の中にヒントがありそうです。



割り箸はエコの天敵!? いいえ、里山の救世主です

イベントのお楽しみの一つといえば飲食ブース。あちこちの屋台をのぞくのは祭りや催し物ならではの醍醐味です。ただ問題なのは大量に出る紙皿に紙コップ、そして何百、何千膳という割り箸

の束…。イベントのエコ化を考えるうえでリユース食器の活用やマイ食器、マイ箸の持参を呼び掛ける主催者が増える中、一方で「ぜひ割り箸を積極的に使ってください!」と呼び掛ける学生たちがいます。

使い捨ての割り箸は森林環境の“天敵”と思われ勝ちですが、「それは大きな誤解」と話す京

都女子大学の学内企業「SHIBARIWA」の皆さん。現在、流通数の大半を占めている中国製の割り箸ではなく、国産の「間伐材」を活用すれば、国内の林業を再生することができ、荒れはじめている日本の森林を救うことになるというのです。



学内企業「SHIBARIWA」のメンバー

安価な輸入品に勝つために 広告営業へ東奔西走

起業のきっかけとなったのは里山の環境を学ぶ高桑進教授の講義でした。国産材の価格低迷で、全国の山林で切り捨て間伐が増えています。そこで考え出された間伐を支援するシステムが『割り箸一膳の革命』です。安全で安心できる国産の割り箸の価格は、中国産に比べ約3倍。とても



広告を掲載した箸袋たち

そのままでは太刀打ちできません。

そこで大阪のベンチャー企業と共同で「箸袋」に広告を掲載し、中国産と変わらない価格を実現するビジネスモデルを開発。「食卓エンタ」と命名された商品は現在、学食や飲食チェーン店、イベント会場などに卸されています。

メンバーの渥美志織さんは「広告の sponsor 探しが一番大変ですが、一軒ずつ説明し、思いを理解してもらうことはやりがいがある」と言います。「回収した割り箸を活用するため、山で炭焼き実習も行っているんですよ」とは宮田真優加さん。環境に、林業に、企業に、使う人にと、それぞれの意識を少しずつ変えていくこの取組。一膳の割り箸から始まる革命が、今広がっています。

■コラム

ついてますか？環境ラベル

会場で配布する記念品や使用する物品。エコマークやグリーンマークがついてますか？近年ではバイオマス（生物由来原料）マークや牛乳パック再利用マークなど、様々な商品・サービスがあります。ぜひ優先的に利用してみてください。



環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品



間伐材を使用した製品



古紙配合率40%以上の紙製品



製造等にグリーン電力が使用されている製品

「DO YOU KYOTO?」 サンガプロジェクト始動!!

京都議定書の誕生の後、世界中で交わされるようになった合言葉「DO YOU KYOTO?」。「環境にいいことしてますか?」の問いかけは京都のまちにずいぶん浸透してきました。

そんな中、京都のJリーグクラブである京都サン

ガF.C.は、2009年9月にこのプロジェクトの大使に就任。地元にも愛され、子どもたちのあこがれの的であるチームが一丸となって環境問題に取り組んでいます。

中でも注目したいのが西京極で行われるホームゲーム。毎回1万人近くの観客が訪れますが、環境への負荷を少なくするため、市バス・地下鉄の利用を積極的に呼び掛けています。ポスター



Profile

株式会社京都パープルサンガ
社長

今井浩志さん

1922年に創設された京都紫光クラブを前身とするプロサッカーチーム「京都サンガF.C.」。専務取締役を経て2010年1月より現職。

行きも 帰りも エコで行こう。

04
エコイベントの
先駆者たち

環境に負荷をかける自動車の排ガス。
たくさんの人がやってくるイベントだからこそ
来場者には公共交通を利用してほしい。

やホームページでの告知はもちろん、京都市交通局とタイアップして、チームオリジナルデザインの「トラフィカ京カード」を発行。ゲーム当日、このカードを利用してスタジアムに来ると優待割引を受けることができます。

選手からサポーターへ つなげたい環境意識

この他にも地元プロスポーツチーム「京都ハナリーズ（バスケット）」、「京都アストドリームス（女子野球）」と組んで、市バス・地下鉄で3チームの試合を応援に行く特典が受けられる「スタンプラリー」も実施。

マイカーの環境啓発活動も行っていて、昨年



ホームゲームでのトラフィカ京カード先行発売



スタジアムでもエコの呼びかけ

は西京極運動公園を会場に「次世代自動車試乗フェスタ」を開催。選手とファンと一緒に電気自動車に試乗し、その乗り心地を体験しました。また、サンガスタッフ全員が「京（みやこ）エコドライブーズ」を宣言しており、呼び掛け運動では来場者の約1割が登録するという成果も挙げています。

「エコについては、できるだけ選手の言葉で語らせたい。あこがれの選手の言葉なら説得力も少しは高まるはず」と今井浩志社長。また活動を進めるためには、環境について高い意識を身に付け、チーム内に浸透させる努力を怠ることはできない、とも話してくれました。

リユースカップ導入や使用済てんぷら油・小型家電の回収にも取り組む京都サンガ。試合だけでなくエコ活動からも目が離せません。

■コラム

電車・バスを使いたくなる「エコ特典」。

公共交通機関の利用を呼び掛けるのはイベントのエコ化に欠かせないポイントの一つ。それを促進しようと「特典」を設ける試みも各所で広がっています。例えば、バス・地下鉄で来場した子どもにすてきな「特典」をプレゼントした大学の学園祭もあります。京都市交通局を

はじめ、鉄道各社が発行している「カード乗車券」をバス代わりにして、楽しいゲームに参加できるというもの。事前にポスターやホームページなどで告知しておけば効果も期待できます。「エコ特典」を考えてみませんか？



お地蔵さんに エコを教わる 夏休み。

イベントで一つでもエコに
取り組みれば来た人みんなの
「学びの機会」になるもの。
まずは身近な町内から。



Profile

特定非営利活動法人
環境市民

ボランティアスタッフ

内田香奈さん(右)

事務局スタッフ

岩崎恵美子さん(左)

1992年、京都で設立。環境のため
に率先して実践と提案を行っている。

町の祭りに環境の視点を 取り入れた「エコ地蔵盆」

京都の子どもたちの間で、夏休み終盤のお楽しみと言えば今も昔も地蔵盆。子どもの健やかな成長を願って、町内の大人たちが工夫を凝らして開かれる伝統行事です。お地蔵さんのまわりには提灯がいくつも提げられ、ゲームや「おさがり」の

おやつを心待ちにしたものでした。

この地域のお祭りに、「環境」の視点を取り入れるプロジェクトが広まりつつあることをご存じですか？京都を拠点とするNPO「環境市民」が提案する「エコ地蔵盆」は、2006年にスタートした取組。「元々はうちの会員の一人が町内の役員をした時に、地蔵盆に環境配慮の視点も入れてみたいと話が持ち上がったのがきっかけでした」と事務局



大宮薬師山西町・東町ではリユース皿を活用

の岩崎恵美子さん。当初は1町内だけでしたが、翌年は4町内、今では20町内以上が取り組んでおり、実施のためのアイデアや事例は、冊子『やってみよう!エコ地蔵盆』にまとめられ、手引書として活用されています(環境市民のホームページよりダウンロード可 <http://www.kankyoshimin.org/>)。

地域で一緒に育てる 子どもと環境への意識

どんな地域でも昔から町の祭りは子どもにとって社会のルールや地域での付き合い方を知る場でした。地蔵盆は町内が一緒になって環境とまちの未来のことを考える絶好の機会です。

冊子には環境負荷の少ない景品やお供え物を選ぶポイント、ごみ減量のアイデアなどが満載。

添加物の少ないおやつや、それを提供してくれる地域のお店も紹介されています。ゲームに代わって「発電体験」をした町内の事例の他、手づくりの「紙相撲」は電気で動く玩具に慣れた子どもたちには新鮮だったよう。リユース食器を導入した町内では、大工さんが持ち寄った「おがくず」を使ってみんなで皿をふき、水質保全についても考えたと言います。

「環境に向き合えばまちづくりや人権、人とのつながりも考えることになる」とスタッフの内田香奈さん。「とはいえ難しく考えず、最初は“地蔵盆



ハヤシライスのはあとは「おがくず」で油分をふき取り

をもっと面白くしたい”というのでいいと思うんです」。工夫することは楽しく、大人が面白ければ子どももうれしい。そんないい循環に乗ってまちにエコが広まっています。

■コラム

「京都音楽博覧会」でのエコの工夫。

巻頭のくくりへのインタビューでも紹介した「京都音楽博覧会」。このイベントでは、国際青年環境NGO「A SEED JAPAN」の協力の下、毎年「ごみゼロナビゲーション」が実施されています。入場ゲートでごみ袋を配布し、6カ所に設置されているエコステーションまで持参して

もらうという仕組み。またNPO地域環境デザイン研究所ecotoneと協力してリユース食器を全面導入。スタッフのナビを受けつつ「自分のものは自分で分別する」スタイルが確立され、来場者にエコへの理解が広がっています。

イベントを エコにしてみよう!

ここまでに紹介してきた

「エコイベントの先駆者たち」の取組。

たくさんのヒントを見つけることができたでしょうか？

ここからは、あなたが企画するイベント・お祭りについて

どうすればエコ化できるのか、具体的にその「HOW TO」を

解説していきます。チェックリストや手順など、ぜひ活用してください!

イベントのエコ化を 推進するための5つのポイント

その**1** ごみの発生を抑え、リサイクルを進めよう **01～07**

その**2** 省エネルギー・省資源をめざそう **08～13**

その**3** グリーン購入に取り組もう **14～17**

その**4** 環境に配慮し、交通手段を考えよう **18～23**

その**5** 参加者の環境意識を高めよう **24～27**

イベントを
エコ化するための
大まかな流れ



ステップ 01

企画・準備

なるほど! 疑問解決

エコイベント成功のための 27の チェックポイント

ファーストステップではまず、企画するイベントがどれだけエコ化できるのか
自分で確認してみましょう。次の項目をクリアできれば、
地球にやさしく、おまけに予算にもうれしいイベントにできるかも。

01

NO! 紙コップ NO! 紙皿
食器は
リユースで。

お祭りのあとに残るのは思
い出と、大量のごみの山…。
使い捨て食器をやめて、洗っ
て何度も使えるリユース食
器を使ってみよう!

02

分別回収は
ごみ減量
の特効薬

分別を徹底すると余計なご
みが減って知ってた? 会
場内に分別場所を設けて
適正処理・リサイクルへつ
なげましょう。

分別場所への
スタッフ配備で効率UP。
持ち帰りも呼び掛けて。

03

**看板や
展示物**って
リース・レンタルで
充分かも。

イベントごとに看板や展示
物を全部作るって、すごく無
駄ですね。リースやレンタ
ルで賄えれば、予算面でもお
得かも。

「受付」「トイレ」の
立札なんて何度も
使いまわせるはず!

04

のぼりやユニフォーム。
これって
もう一度
使えない?

のぼりやスタッフユニフォー
ムを使うのが一度きりなんて
もったいない。他のイベント
で再使用することも考え
て準備したいところ。

05

たくさんの人に来てほしい!!でも配った
チラシはやがて
ごみになる…。

事前告知や会場内で配るチラシ。これも終わればごみになってしまう。インターネットや映像で替えられる部分もあるんじゃない?

これからは「マイバッグ」「マイボトル」「マイ食器」「マイ箸」の「4E」を!

06

マイバックはいまや常識。これからは
マイ食器
持参。

飲食ブースで大量に出る紙皿や紙コップ。マイボトルやマイ食器、マイ箸の持参を呼び掛ければ、参加者意識だって高まりマス。

07

チラシや
ポスターは
必要最小限に。

チラシや資料は余らせれば予算もムダに。印刷部数をきちんと計算して、どうしても余ったものは持ち帰って主催者がリサイクルへ。

08

冷房は28℃、
暖房は20℃

イベントでも当たり前!!

ただでさえ、たくさんのエネルギーを消費するイベント。会場の混雑状況を見ながら、適切な温度に設定しよう。

お天気や扉・窓の管理で冷暖房の効きが
すいぶん違ってくるはず。

09

目立つのもいいけれど
ハデすぎる
電飾は…ね?

展示物がある時は、**適度な照明**で。看板やステージなども過度の電飾は控えたいところ。

控室など人がいない部屋のスイッチはこまめに切ろう。

10

つけっぱなし、
出しっぱなし。

忙しいイベント中は盲点になりがち。

電気・ガス・水道の使用は、スタッフがしっかり管理を。**ムダをなくす計画と、参加者への呼びかけも節約のポイント**です。

11

降り注ぐ日の光。
これを利用しない
手はない!

屋内の会場でも、自然光を上手に取り入れれば照明や暖房のエネルギーを節約できるはず。**窓を活かした設営**など工夫をしてみてください!

LEDライトを
使った灯ろう



LEDを使った
ライトアップ(京の七夕)

12

**選んだその設備、
省エネ仕様
ですか?**

設備や機材を選ぶときは、**省エネ対応の機種**を。夜間のライトアップイベントだってLEDライトを使えば節電できます。

13

**太陽光に
バイオ燃料。**
新エネルギーにも
大注目。

太陽光発電やバイオディーゼル燃料といった**新しいクリーンエネルギー**も身近になってきています。イベントはそれらを使う絶好のチャンス。

14

**使うなら、やっぱり
エコマーク・
グリーンマーク
商品。**

エコマーク・グリーンマークの付いた環境に配慮した製品やサービス、リサイクル商品を**優先的に購入**しよう。

15

**そのチラシ
再生紙マーク
ついてますか?**

チラシや資料を作るときは再生紙やソイインク(環境に配慮された大豆油が原料)などを使い、**印刷物には再生紙使用マークの表示**を。

みやこ

「京グリーン電力制度」

CO₂を排出しない太陽や風力、バイオマス、水力など、自然エネルギーを使って発電されたグリーン電力。京都では「エネルギーの地産地消」を目指して、京グリーン電力制度が設けられています。イベントでの導入もちろんOK。

【問い合わせ】

京グリーン電力運営協議会 ☎075-708-8153

16

**もらった人も、
地球もうれしい
記念品。**

会場で配る記念品や販売物。これでもできるだけ間伐材を使った木製品など**環境にやさしいもの**を選びたい。もちろん簡易包装でね!

「旬産旬消」
(自然のまま、季節に
採れるものをすぐ
食べる)もおススメ。

17

地産地消。 これもまたエコ。

イベント会場で売る商品や
使うものはできれば地元の
農産品や地場製品で。輸送
にムダなエネルギーを使いま
せんから。

18

会場は 公共交通機関 で行ける場所がベスト。

イベントのエコ化は会場選
びから始まっています。地下
鉄や市バスなど公共交通を
使いやすい会場にすれば環
境負荷もぐっと減るはず。

19

駅・バス停から 遠い会場なら シャトルバスで まとめて移動を。

公共交通機関の利用が難
しい会場の場合は、マイカー
利用を減らすため、最寄りの
駅・停留所近くからシャトル
バスの運行を。

20

電車・バスの利用は 事前告知と 場内案内が “肝”。

せっかく駅近くの会場にしても、
参加する人が利用しなければ
意味がない。チラシでの
告知や会場で呼びかけを。

会場に公共交通機関の
案内図や時刻表も
あると便利。

21

乗るならやっぱり 低公害車。

参加者を運ぶシャトルバスは
もちろん、準備に使う車両も
電気自動車やハイブリッドカー
など環境負荷の少ない自動
車を選びたいところ。

市バス・地下鉄の
カードを特典
パスにするのも
いいかも。

P16のコラム参照



22

利用特典 があれば電車やバスで 来なくなる!

市バス・地下鉄とタイアップ
したイベントや利用者特典を
設ければ、公共交通機関で
出かけたくなる。「お得感」を
利用すべし!

23

マイカーなら エコドライブ。 相乗り なんかもどうでしょう？

マイカーでの参加者が見込まれる場合は、アイドリングストップなどエコドライブや相乗りを呼び掛けよう。

24

来場者もどんどん 巻き込む。 それが「エコ化」の流儀。

エコの取組の一つひとつに触れてもらうことで、参加者の環境に対する「気づき」のきっかけになるはず。

マイボトルの持参や公共交通の利用、ごみの持ち帰りを、義務でなく「一体感・達成感」に感じてもらえれば大成功！

25

エコへの取組。 その意味までも 知ってもらう 工夫を。

たくさんの人が集まるイベントはエコ化の取組を知ってもらう絶好のチャンス。啓発ブースやパネル掲示等でアピールして。

請負業者さんや当日のアルバイトさんにも解りやすい工夫を。

26

イベントの 作り手も 共有したい環境への 意識。

企画段階から話し合いの中で、ぜひ環境について意識の共有を。文章の配布・送信や、会場へのスローガン掲示などで心を一つに！

27

イベントで出る 環境負荷。それを ほかで 取り返す、 という考え方。

イベントで出た環境への負荷。それを他の取組で相殺する「カーボン・オフセット」もぜひ取り入れてほしい一つ。

「カーボン・オフセット」とは？

人がたくさん集まるイベントでは、どんなに工夫してもやっぱり普段よりたくさんのCO₂が排出されるもの。それを主催者が行う他の様々なCO₂削減の取組で相殺すること。イベントで得る成果、そして楽しさを満喫したら、地球にもぜひきちんとお返しを。

「登録制度」の活用で エコ化をPR!

皆さん、チェックポイントはいくつクリアできたでしょうか？京都市ではイベントのエコ化へ取り組む人々を応援するために「京都市認定エコイベント」の登録制度を設けています。主催者の取組をイベント参加者へより分かりやすくアピールできるこの制度。ぜひ活用してください。

「イベントのエコ化を推進するための5つのポイント」**P19**は、全てクリアできていますか。全てのポイントで一つ以上エコ化の取組を実施するイベントは、「京都市認定エコイベント」に登録できます。

登録されると、取組の項目数に応じて、1から5のエコレベルが決められ、京都市のホームページで紹介されます。

申請先：■京都市 環境政策局 循環型社会推進部 循環企画課
FAX:075-213-0453
メール:junkan@city.kyoto.jp (件名に「エコイベント申請」と書いてください)

■もしくは、各区役所・支所内のエコまちステーション(連絡先 **裏表紙**)

申請用紙：裏表紙記載のホームページからダウンロードできます。

登録して使おう! 「エコイベントマーク」

認定エコイベントに登録すると、エコレベルを示した「エコイベントマーク」をポスターやチラシ、イベント会場でのアピールに使うことができます。

エコレベルとマーク

エコイベント マーク					
エコレベル	1	2	3	4	5
取扱項目数	6～9項目	10～14項目	15～19項目	20～24項目	25項目以上

エコイベントマークは裏表紙記載のホームページからダウンロードすることができます。

疑問・相談は、地域の「エコまちステーション」へ

登録制度に、エコイベントマーク。ぜひ利用したいけど何から始めたら・・・と不安なあなた。あなたのすぐそばに相談窓口があるので、ぜひ利用してください。最寄りの区役所・支所内の「エコまちステーション」は、環境行政の拠点窓口。エコに関するいろんな相談に応じています。

こんな疑問も
相談できます。

イベントを
エコにしたいけど
どうしたらできるの？

どうすれば、
ごみは
減量できる？

認定
エコイベントへの
登録方法は？

リユース食器を
使ってみたいけど、
どうしたらいいの？



賢く使おう！ 「リユース食器」助成金制度

イベントでの使い捨て食器をなくし、ごみ減量に大いに役立つことで注目される「リユース食器」。京都市ではその導入費用に対して助成制度を設けています。賢く活用して、イベント経費も、環境への負荷も軽くしましょう！

- 対象となる：自治会・町内会、NPO、学校などの団体が、京都市内で開催し、リユース食器イベントを使って100食以上の飲食品を提供するイベント（京都市認定エコイベントへの登録が必要です）。
- 助成内容：リユース食器導入費用の2分の1（上限10万円）
- 助成対象：リユース食器のレンタル費用のほか、コーディネーターの人件費、食器洗浄機などのレンタル費用（食器の破損や紛失に伴う補償金は対象外）
- 申請受付：各区役所・支所内のエコまちステーション
- 助成申請：申請受付は原則としてイベント開催日の2週間前まで
※助成金の予定総額に達した時点で受付を締め切る場合があります。
- その他、詳しくは裏表紙記載のホームページまで。



ステップ 02

実施・運営

リユース食器を使った イベント会場 「ごみ減量大作戦!!」

イベント・お祭りの目玉と言えば、

やっぱり屋台・飲食ブース。

けれどそこから出る大量の使い捨て紙皿、紙コップ、
割り箸は運営者にとって頭の痛いところだ。

そこでおすすめしたいのが「リユース食器」。

その導入・運営方法を紹介します。



「リユース食器」って どんなもの？

リユース (reuse) 食器とは、
使い捨てではなく洗うことで
何度でも繰り返し使える食器。
主にイベントで使用され、カッ
プや平皿、お椀型のものなど
があります。使い捨てのごみ
を削減できる、エコイベントの
強い味方です!

まず手始めに 何をすればいい？

イベントの中で、どの部分をリユ
ース食器にするのか、まずは検討を。
実際に食器を使う飲食ブース (模
擬店・屋台) の担当者に対し、ど
のような容器を使いたいのか事前
にヒアリングしましょう。

どのくらいの食器がいるの？

食器の必要数は、使い終わった食器を「会場で洗って繰り返し使う」か、「当日の使用数をすべて用意しておく」か、どうかによって変わってきます。過去の販売数や当日の販売見込みを把握し、必要数を決めましょう。人数が読めない場合は、上限を区切り「限定〇〇食はリユース食器」とする方法もあります。

どうやって借りるの？

リユース食器は、NPOから借りられるものや、地区で共有するものなど様々です。NPO等に相談すれば、色々アドバイスももらえます。会場の水道の事情やリース側の洗浄のシステムなどを確認のうえ、手配しましょう。

例えば

【リユース食器の貸出・相談】

特定非営利活動法人
地域環境デザイン研究所
ecotone (エコトーン)
tel:075-205-1433
<http://www.ecotone.jp>

会場での「貸出・回収」のナビゲーションはどうすれば？

【貸出】リユース食器の貸出方法は、会場に「貸出所」を設け、利用者がそれを持って各模擬店を回る方式と、模擬店で貸し出す方法などがあります。

【回収】リユース食器の回収方法は、回収所で回収する方法と、模擬店で回収する方法などがあります。その他、デポジット制（預かり金制度）を導入することも検討してみてもいいです。

リユース食器の洗浄と食品衛生法

イベント会場に飲食ブースを出店する場合は、京都市の保健センターでの手続きが必要です。リユース食器を使用する場合は「洗浄・乾燥」や「保管」の方法について詳しく尋ねられる場合があります。事前にきちんと計画して届け出ましょう。

担当リーダーを決め、人員を確保しておこう

ただでさえ大忙しのイベント会場。リユース食器を扱う場合は、専任の担当リーダーを決め、その指示によってスタッフが動くシステムを構築しておきましょう。また、貸出・回収・洗浄などの流れが決まったら、その作業量に合わせて人員を適正に確保しておくのも成功のポイントです。

来場者へPRする方法も考えよう

事前告知はもちろん、来場者が会場で混乱しないよう、スムーズにナビゲートできる案内図・案内板なども用意しましょう。来場者にエコへの「参加意識」を持ってもらうことも、リユース食器導入の大きな目的の一つです。

分別回収をスムーズにする 「ごみステーション」をつくろう!

会場でのごみの散乱を防ぎ、ごみを減量するためにぜひ設けたいのが「ごみステーション」。分別回収やリサイクルがスムーズになり、来場者の環境意識の醸成にも一役買います。

- 会場の広さや予想来場者数、人の流れなどを考えて設置数や設置場所を検討（リユース食器の回収ブースと一緒にすると効率的に運営できます。）
- 分別の種類や回収方法を決めたら、分別ごみ箱などの備品を用意。
- チラシでの事前告知や当日の会場での案内方法を決めて準備。
- ステーションの担当リーダーを決め、当日のスタッフを確保。
- 当日は、スタッフを配備し、来場者にごみの分別を呼びかけると効果的です。
- イベントから出るごみは事業系廃棄物※です。許可業者に引き取ってもらい、きちんとリサイクル・処理する必要があります。

※一般廃棄物と産業廃棄物の2種類に分類されます。



エコへの取組を来場者にも 知ってもらうための仕掛けとは?

せっかくがんばってチャレンジしたイベントのエコ化。来場者にもそれをぜひ知ってもらいたいところです。

- エコ化への取組をチラシやポスター等でも紹介。
- エコイベントマークを会場にも掲示しよう。
- 環境に関する啓発ブースなどを企画。
- 会場アナウンス、ステージでのMCなどでも取組を紹介しよう。



ポスターや
チラシに載せたり、
会場に掲示してエコ化を
アピールして!

ステップ 03

検証・まとめ

成果を次へ活かすために イベントをみんなで 振り返ってみよう

イベントの後、ホッと一息つきたいところだけれど、忘れてはいけないのが「成果」の検証。

皆さんの協力の下、せっかく実現したイベントのエコ化。

次へつなげるため、きちんと調査してみてください。

ごみの量や処理方法などを見直せば、反省点だけでなく、きっと「達成感」も味わえるはず！

イベントを
エコにしてみよう！

イベントをエコ化できたか チェック ☒ してみよう！

- ☐ 計画したエコ化の取組を
全て実行することができた？

- ☐ できなかったエコ化の取組があれば、
その原因を考えよう。

- ☐ ごみの種類ごとの発生量や
リサイクルできた量はチェックした？

- ☐ イベントで使った電気やガス、
水道などのエネルギーの使用量は計算した？

- ☐ 公共交通の利用状況はどうだった？

イベントを通して気付いたことや工夫したことなんかを記録して、

次のイベントに活かしてください。

🍃「京都市認定エコイベント」に登録したイベントは、イベント実施後に「実施報告書」を必ず提出してください。

※実施報告書の様式は裏表紙記載のホームページからダウンロードすることができます。

問合せ先

京都市 環境政策局 循環企画課

TEL:075-213-4930 FAX:075-213-0453

京都市 エコイベント

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000082881.html>

北エコまちステーション ☎ 075-366-0155

南エコまちステーション ☎ 075-366-0188

上京エコまちステーション ☎ 075-366-0776

右京エコまちステーション ☎ 075-366-0190

左京エコまちステーション ☎ 075-366-0821

西京エコまちステーション ☎ 075-366-0192

中京エコまちステーション ☎ 075-366-0180

洛西エコまちステーション ☎ 075-366-0194

東山エコまちステーション ☎ 075-366-0182

伏見エコまちステーション ☎ 075-366-0196

山科エコまちステーション ☎ 075-366-0184

深草エコまちステーション ☎ 075-366-0198

下京エコまちステーション ☎ 075-366-0186

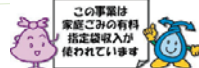
醍醐エコまちステーション ☎ 075-366-0311

【イベントで出るごみの処理・処分に関するお問合せ・相談】

事業系廃棄物対策室 ☎ 075-366-1394

京都環境事業協同組合（一般廃棄物） ☎ 075-691-5516

（社）京都府産業廃棄物協会（産業廃棄物） ☎ 075-694-3402



再生紙・植物油インクを使用しています。